

ユーシン

景況レポート

Number.98
(2018.10~12月期)

結城信用金庫

■ このレポートは、当金庫のお客様231企業(回答企業229企業)について、景気の現状と今後の見通しを調査したものです。

調査結果のあらまし

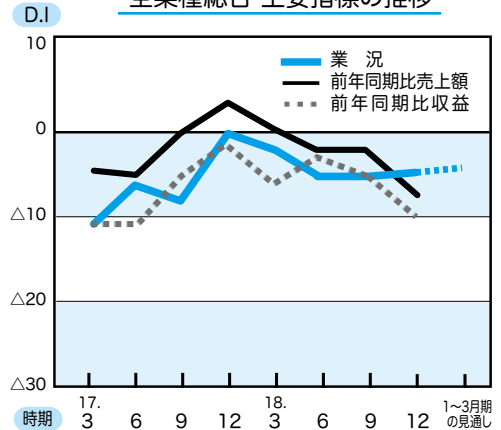
業況は、卸売業・サービス業で改善、建設業・不動産業で低下

10月~12月期の概況

茨城県西地域の中小企業の業況判断D.I(「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いた指標)は $\Delta 4.4$ と、2018年7~9月期(前期)の調査より0.9ポイント上昇し、景況感はわずかに改善しました。

業種別では、建設業で8.2ポイント、不動産業で16.7ポイント低下しましたが、製造業と小売業が横這い、卸売業で4.8ポイント、サービス業で23.2ポイント改善しました。項目別では、売上判断D.Iが1.3と前期比1.7ポイント、収益判断D.Iにおいても3.6ポイントともに改善しました。また、前年同期比売上額判断D.Iは $\Delta 7.9$ 、前期比6.1ポイント、同収益判断D.Iでも $\Delta 10.0$ と、4.7ポイントともに低下しました。雇用面では、人手過不足D.Iが $\Delta 13.5$ と前期比5.6ポイント改善しました。また、前期比残業時間D.Iは5.6ポイント増加しました。借入金の動きでは、借入したが4.8ポイント増加し、借入難易度では、特に大きな変化は見られませんでした。経営上の問題点では、「同業者間の競争激化」が34.5%、「売上の停滞・減少」が25.8%、「利幅の縮小」が20.1%で上位となり、前期とほぼ同様の課題が挙げられました。また、特別調査の「2019年の経営見通し」について、2019年の日本の景気をどのように見通していますかの問に対し、普通が43.67%と最も多く、次いでやや悪いが37.99%と上位に挙げられました。(詳しくは8~9ページに掲載しています)

全業種総合 主要指標の推移



1月~3月期の見通し

業況の見通し判断D.Iは $\Delta 3.9$ 、当期実績比0.5ポイント改善の見込

来期は、不動産業で改善、卸売業・小売業で横這いを見込んでいます。項目別では、売上判断D.Iが当期実績比7.9ポイント、収益判断D.Iでも同0.9ポイントの低下を見込んでいます。また、販売価格判断D.Iにおいても0.8ポイント下降が見込まれます。雇用面の動きでは、人手過不足判断D.Iが当期実績比1.3ポイント改善、また、残業時間D.Iは7.0ポイントの減少見通しとなっています。

当面の重点施策でも、「経費の節減」が50.7%、「販路を広げる」が38.4%、「人材を確保する」が20.5%と上位になりました。

景況天気図

【この天気図は、景気指標を総合的に判断して作成しました】

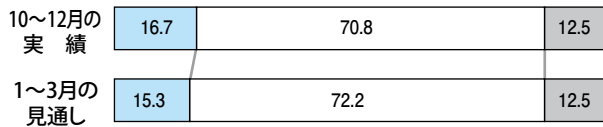
業種名	時期	30年7~9月	30年10~12月	31年1~3月見通し	概	要
総合						業況判断D.Iは、0.9ポイント改善し $\Delta 4.4$ 。来期は、0.5ポイント改善し $\Delta 3.9$ の見通し。
製造業						業況判断D.Iは、横這いで4.2。来期は、1.4ポイント悪化し2.8の見通し。
卸売業						業況判断D.Iは、4.8ポイント改善し $\Delta 15.2$ 。来期は、横這いで $\Delta 15.2$ の見通し。
小売業						業況判断D.Iは、横這いで $\Delta 22.5$ 。来期は、横這いで $\Delta 22.5$ の見通し。
サービス業						業況判断D.Iは、23.4ポイント改善し6.5。来期は、3.3ポイント悪化し3.2の見通し。
建設業						業況判断D.Iは、8.2ポイント悪化し5.7。来期は、2.8ポイント悪化し2.9の見通し。
不動産業						業況判断D.Iは、16.7ポイント悪化し $\Delta 16.7$ 。来期は、22.3ポイント改善し5.6の見通し。

好調 ← → 低調 / 業況改善 業況悪化 業況変化なし

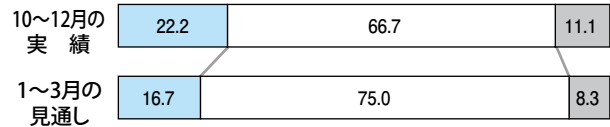
■ 製造業

回答企業数72企業(回答率100%)

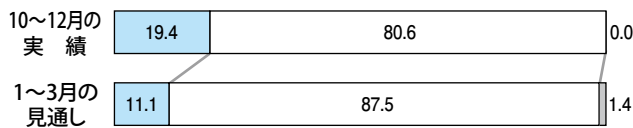
【業況】



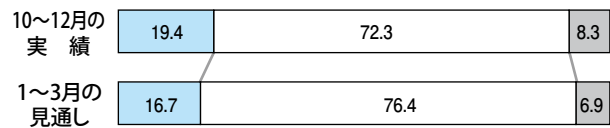
【売上額】



【原材料価格】



【収益】



■ 増加・やや増加 (良い・やや良い) □ 変わらず(変化無し) ■ やや減少・減少(やや悪い・悪い)

10月～12月期の概況

業況判断D.Iは4.2、前期比横這い

項目別では、売上額判断D.Iが11.1と前期比5.5ポイント、収益判断D.Iでも11.1と同11.1ポイントともに改善しました。また、前年同期比売上額判断D.Iは6.9、前期比1.3ポイント、同収益判断D.Iでも5.6、同2.8ポイントともに改善しました。

雇用面の動きでは、人手過不足判断D.Iが△16.7と前期比5.8ポイント改善し、人手不足感がやや緩和しました。また、前期比残業時間D.Iは12.5と前期比1.2ポイント増加しました。

借入金の動きでは、「借入した」が23.6%（前期19.7%）、「予定あり」が20.8%（前期19.7%）を示しています。また、設備投資を「実施した」と回答した企業は16.7%（前期12.7%）となりました。

経営上の問題点では、「同業者間の競争激化」が29.2%、「利幅の縮小」が26.4%、「原材料高」が25.0%と上位に挙げられました。

1月～3月期の見通し

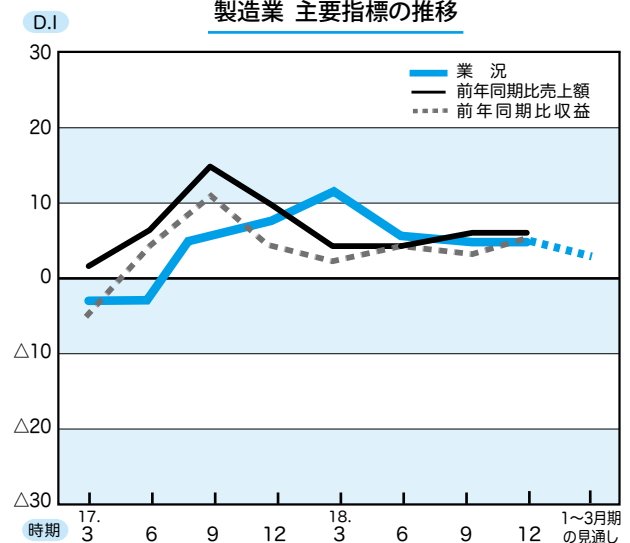
業況の見通し判断D.Iは2.8、当期実績比1.4ポイント低下の見込

項目別では、売上額判断D.Iが当期実績比2.8ポイント、収益判断D.Iでも同1.4ポイント悪化を見込んでいます。また、販売価格判断D.Iは当期実績比4.2ポイント低下を見込んでいます。

雇用面の動きでは、人手過不足判断D.Iが当期実績比2.8ポイント改善、残業時間D.Iは同9.7ポイント減少の見通しとなっています。

当面の重点施策では、「販路を広げる」が50.0%、「経費の節減」が47.2%、「人材を確保する」が23.6%と上位に挙げられました。

製造業 主要指標の推移



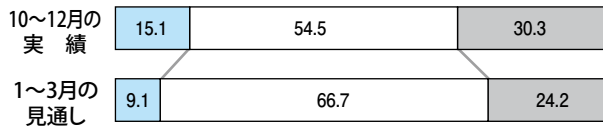
調査員のコメントから

業況は例年並み。増税の影響が、どの程度売上に響くかが、未知数で不安材料である。

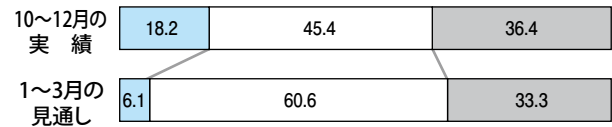
■ 卸 売 業

回答企業数33企業(回答率100%)

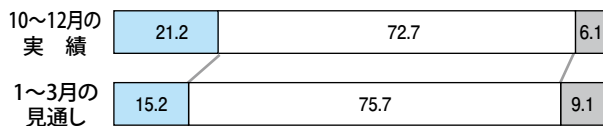
【業 況】



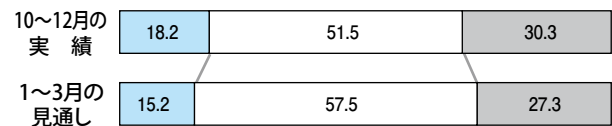
【売上額】



【仕入価格】



【収 益】



増加・やや増加 (良い・やや良い)
 変わらず(変化無し)
 やや減少・減少(やや悪い・悪い)

10月～12月期の概況

業況判断D.Iは△15.2、前期比4.8ポイントの改善

項目別では、売上額判断D.Iが△18.2と前期比8.2ポイント、収益判断D.Iでも△12.1と同2.1ポイントともに低下しました。また、前年同期比売上額判断D.Iは△15.2、前期比5.2ポイント、同収益判断D.Iでも△18.2、同8.2ポイントともに低下しました。

雇用面の動きでは、人手過不足判断D.Iが△15.2と前期比1.9ポイント悪化し、人手不足感が小幅不足となりました。また、前期比残業時間D.Iは9.1と同5.8ポイント増加しました。

借入金の動きでは、「借入した」が30.3%（前期30.0%）、「予定あり」が9.1%（同23.3%）を示しています。また、設備投資を「実施した」と回答した企業は12.1%（前期16.7%）となりました。

経営上の問題点では、「売上の停滞・減少」が33.3%、「同業者間の競争激化」が30.3%、「取引先の減少」が18.2%と上位に挙げられました。

1月～3月期の見通し

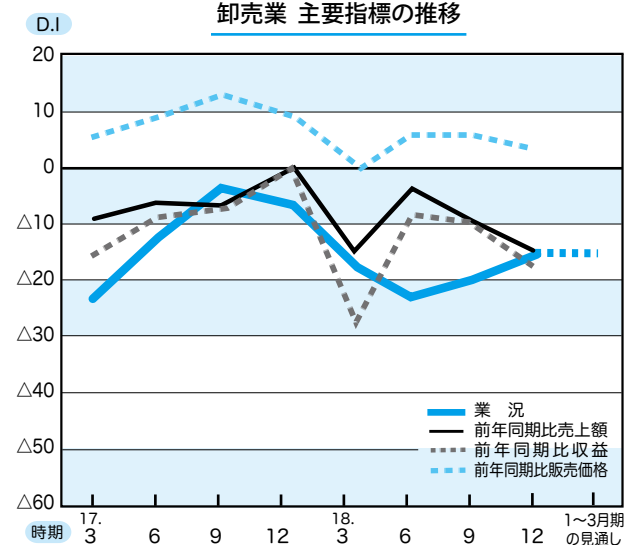
業績の見通し判断D.Iは△15.2と当期実績比横這い見込

項目別では、売上額判断D.Iが当期実績比9.1ポイント悪化、収益判断D.Iでは横這いを見込んでいます。また、販売価格判断D.Iは当期実績比9.1ポイントの下降を見込んでいます。

雇用面の動きでは、人手過不足判断D.Iは当期実績比6.1ポイント改善で、不足感がやや緩和され、残業時間判断D.Iは3.0ポイント減少見込みとなっています。

当面の重点施策では、「販路を広げる」が69.7%、「経費の節減」が51.5%、「情報力の強化」も30.3%と上位に挙げられました。

卸売業 主要指標の推移



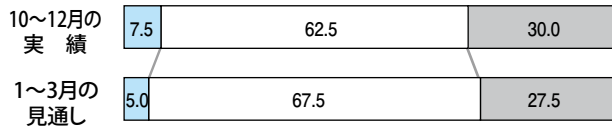
調査員のコメントから

本年は、異常気象の影響もあり在庫管理に苦慮した。今後も、売上高の大きな改善は見込めないことから、引き続き経費削減に努める必要がある。

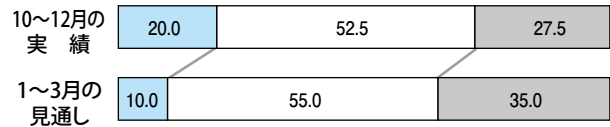
■ 小 売 業

回答企業数40企業(回答率97.6%)

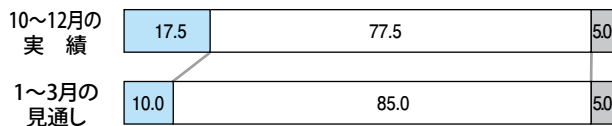
【業 況】



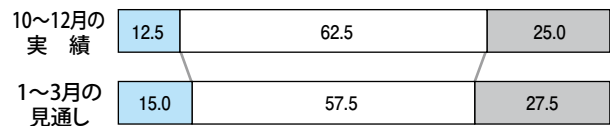
【売上額】



【仕入価格】



【収 益】



■ 増加・やや増加 (良い・やや良い) □ 変わらず(変化無し) ■ やや減少・減少(やや悪い・悪い)

10月～12月期の概況

業況判断D.Iは△22.5、前期比横這い

項目別では、売上額判断D.Iが△7.5と前期比7.5ポイント、収益判断D.Iでも△12.5と同7.5ポイントともに改善しました。また、前年同期比売上額判断D.Iは△22.5、前期比10.0ポイント、同収益判断D.Iは△27.5、同7.5ポイントともに低下しました。

雇用面の動きでは、人手過不足判断D.Iが△5.0と前期比7.5ポイント改善し、人手不足感が縮小しました。また、前期比残業時間D.Iは2.5ポイント増加しました。

借入金の動きでは、「借入した」が32.5%（前期25.0%）、「予定あり」が15.0%（前期12.5%）を示しています。また、設備投資を実施したと回答した企業は2.5%（前期2.5%）となりました。

経営上の問題点では、「売上の停滞・減少」が42.5%、「同業者間の競争激化」が37.5%、「大型店との競争激化」が32.5%と上位に挙げられました。

1月～3月期の見通し

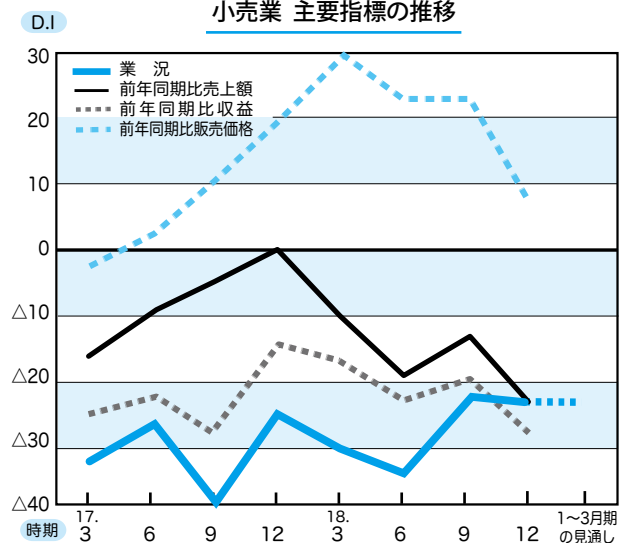
業況の見通し判断D.Iは△22.5、当期実績比横這いの見込

項目別では、売上額判断D.Iが当期実績比17.5ポイントの低下、収益判断D.Iでは横這いを見込んでいます。また、販売価格判断D.Iは当期実績比10.0ポイント下降を見込んでいます。

雇用面の動きでは、人手過不足判断D.Iは当期実績比横這い、残業時間判断D.Iは同5.0ポイント減少の見通しとなっています。

当面の重点施策では、「経費の節減」が65.0%、「品揃えを改善する」が32.5%、「宣伝・広告の強化」が27.5%と上位に挙げられました。

小売業 主要指標の推移



調査員のコメントから

来店客数・客単価とも伸び悩んでいる。仕入・在庫の見直しにより、限りなくロス削減し利益率の改善に取り組んでいる。

■ サービス業

回答企業数31企業(回答率100%)

【業況】

10~12月の実績	16.1	74.2	9.7
1~3月の見通し	16.1	71.0	12.9

【売上額】

10~12月の実績	22.6	67.7	9.7
1~3月の見通し	9.7	64.5	25.8

【材料価格】

10~12月の実績	12.9	87.1	0.0
1~3月の見通し	12.9	87.1	0.0

【収益】

10~12月の実績	12.9	74.2	12.9
1~3月の見通し	9.7	64.5	25.8

■ 増加・やや増加 (良い・やや良い)
 ■ 変わらず(変化無し)
 ■ やや減少・減少(やや悪い・悪い)

10月～12月期の概況

業況判断D.Iは6.5、前期比23.2ポイントの大幅改善

項目別では、売上額判断D.Iが12.9、前期比32.9ポイント、収益判断D.Iでも0.0と同26.7ポイントともに上昇しました。また、前年同期比売上額判断D.Iは△12.9、前期比6.2ポイント低下、同収益判断D.Iでは△12.9、同3.8ポイントとともに改善しました。

雇用面の動きでは、人手過不足判断D.Iが△3.2と前期比6.8ポイント改善し、人手不足感がやや緩和しました。また、前期比残業時間D.Iは3.2と前期比13.2ポイント増加しました。

借入金の動きでは、「借入した」が19.4%（前期13.3%）、「予定あり」が12.9%（前期3.3%）を示しています。また、設備投資を実施したと回答した企業は0.0%（前期13.3%）となりました。

経営上の問題点では、「同業者間の競争激化」が41.9%、「売上の停滞・減少」が22.6%、「人手不足」・「利幅の縮小」・「人件費の増加」・「商圏人口の減少」がそれぞれ12.9%と上位に挙げられました。

1月～3月期の見通し

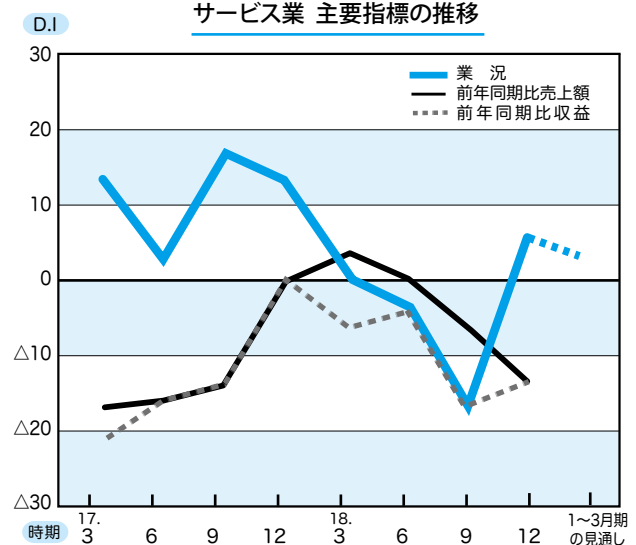
業況の見通し判断D.Iは3.2、当期実績比3.3ポイント悪化の見込

項目別では、売上額判断D.Iが当期実績比29.0ポイント、収益判断D.Iでも16.1ポイント共に悪化を見込んでいます。また、材料価格判断D.Iは当期実績比横這いを見込んでいます。

雇用面の動きでは、人手過不足判断D.Iが当期実績比横這い、残業時間判断D.Iが12.9ポイントの減少見通しとなっています。

当面の重点施策では、「経費の節減」が54.8%、「販路を広げる」が29.0%、「宣伝・広告の強化」が22.6%と上位に挙げられました。

サービス業 主要指標の推移



調査員のコメントから

前期比、売上高・利益共に減少傾向にあるが、強みである地域密着を活かし、販路を広げることに重点を置き、日々業務に取り組んでいる。尚、人員確保が経営上の大きな課題である。

■ 建設業

回答企業数35企業(回答率97.2%)

【業況】

10~12月の実績	20.0	65.7	14.3
1~3月の見通し	17.1	68.7	14.2

【売上額】

10~12月の実績	37.1	42.9	20.0
1~3月の見通し	8.6	82.8	8.6

【材料価格】

10~12月の実績	17.1	80.0	2.9
1~3月の見通し	17.1	82.9	0.0

【収益】

10~12月の実績	22.9	60.0	17.1
1~3月の見通し	5.7	82.9	11.4

■ 増加・やや増加 (良い・やや良い)
 □ 変わらず(変化無し)
 ■ やや減少・減少(やや悪い・悪い)

10月～12月期の概況

業況判断D.Iは5.7、前期比8.2ポイントの低下

項目別では、売上額判断D.Iが17.1と前期比2.3ポイント悪化、受注残判断D.Iは11.4と同10.8ポイント低下しました。また、前年同期比売上額判断D.Iは△2.9、前期比11.2ポイント、同収益判断D.Iでも同14.0ポイント共に悪化となりました。

雇用面の動きでは、人手過不足判断D.Iが△25.7と前期比7.6ポイントわずかに改善しましたが、まだ、人手不足感が残ります。また、前期比残業時間D.Iは11.4と前期比19.7ポイント増加しました。

借入金の動きでは、「借入した」が42.9%（前期27.8%）、「予定あり」が31.4%（前期19.4%）を示しています。また、設備投資を実施したと回答した企業は17.1%（前期8.3%）となりました。

経営上の問題点では「人手不足」が37.1%、「同業者間の競争激化」が34.3%、「利幅の縮小」が22.9%と上位に挙げられました。

1月～3月期の見通し

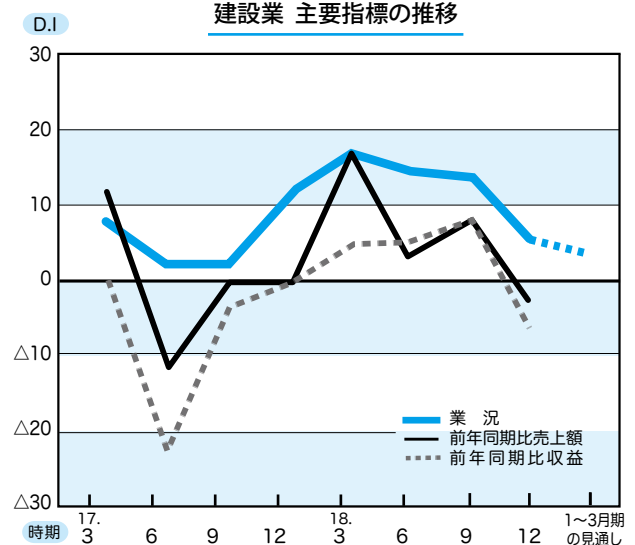
業況の見通し判断D.Iは2.9、当期実績比2.8ポイント悪化の見込

項目別では、売上額判断D.Iが当期実績比17.1ポイント、収益判断D.Iでも同11.4ポイント共に悪化を見込んでいます。また、材料価格判断D.Iは当期実績比2.8ポイントの上昇を見込んでいます。

雇用面の動きでは、人手過不足判断D.Iが当期実績比2.9ポイントの低下が見込まれます。残業時間判断D.Iは11.4ポイントの改善見通しとなっています。

当面の重点施策では、「経費の節減」が54.3%、「人材を確保する」が45.7%、「販路を広げる」が40.0%と上位に挙げられました。

建設業 主要指標の推移

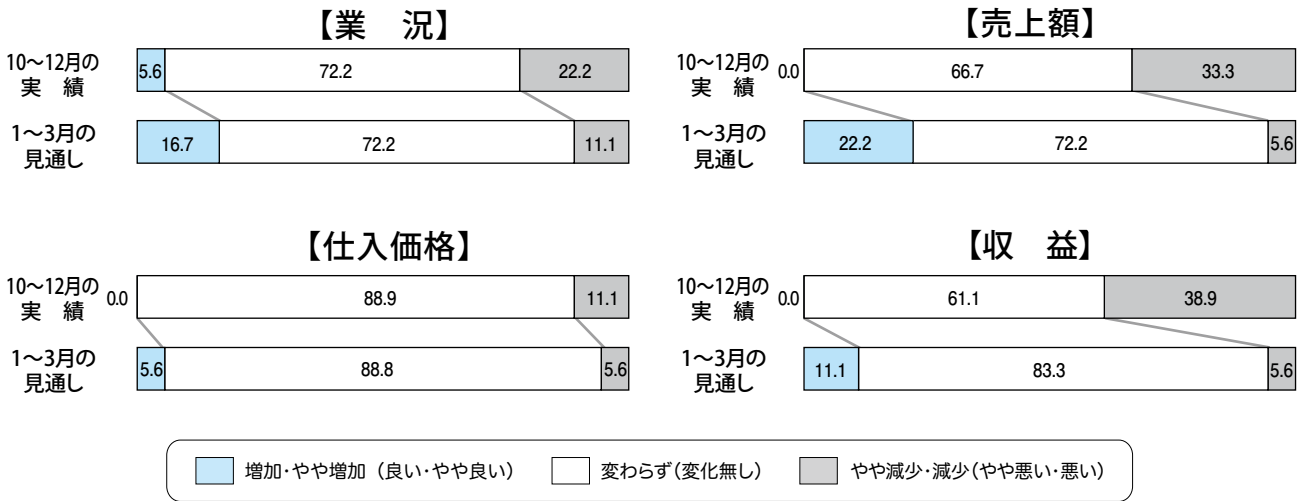


調査員のコメントから

業況は比較的安定。しかし、受注に対して人員確保が難しく、今後、消費税増税時の影響が懸念される。

■ 不動産業

回答企業数18企業(回答率100%)



10月～12月期の概況

業況判断D.Iは△16.7、前期比16.7ポイントの低下

項目別では、売上額判断D.Iが△33.3と前期比50.0ポイント、収益判断D.Iでも△38.9と同55.6ポイントともに低下しました。また、前年同期比売上額判断D.Iは△22.2、前期比16.6ポイント、収益判断D.Iでも△22.2、同16.6ポイント共に悪化しました。

雇用面の動きでは、人手過不足判断D.Iが△11.1と前期比5.6ポイント改善し、人手不足感が和らぎました。また、前期比残業時間D.Iは△5.6と同11.2ポイント減少しました。

借入金の動きでは、「借入した」が22.2%（前期33.3%）、「予定あり」は27.8%（前期22.2%）を示しています。

経営上の問題点では、「同業者間の競争激化」が44.4%、「商品物件の不足」が27.8%、「売上の停滞・減少」・「大手企業との競争激化」がそれぞれ22.2%と上位に挙げられました。

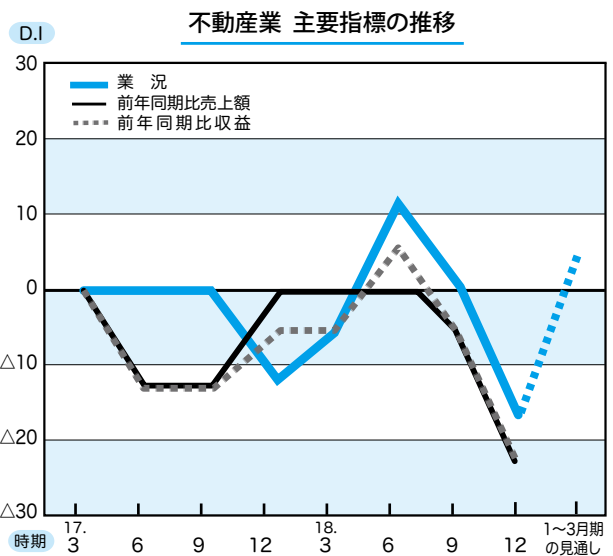
1月～3月期の見通し

業況の見通し判断D.Iは5.6、当期実績比22.3ポイント改善の見込

項目別では、売上額判断D.Iが当期実績比50.0ポイント、収益判断D.Iでも同44.5ポイント共に改善を見込んでおります。また、販売価格判断D.Iは当期実績比33.3ポイントの改善を見込んでいます。

雇用面の動きでは、人手過不足判断D.Iが当期実績比横這い、また、残業時間D.Iが11.2ポイント増加の見通しとなっています。

当面の重点施策では、「情報力の強化」が55.6%、「宣伝・広告の強化」が44.4%、「販路を広げる」が33.3%と上位に挙げられました。



調査員のコメントから

やや商品の不足を感じており、立地条件等を十分勘案し購入計画を立てている。一方、商圏の人口減少に伴い取引数の減少が懸念される。

特別
調査

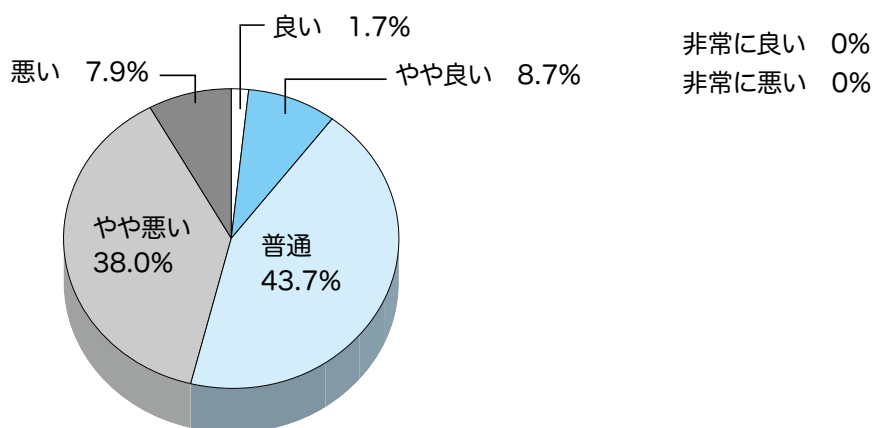
2019年(平成31年)の経営見通し

中小企業経営者と「2019年の経営見通し」について調査を実施しました。

貴社では、2019年の日本の景気をどのように見通していますかの質問に対し、普通との回答が43.7%と最も高く、次いでやや悪いが38.0%という結果となりました。また、2019年の自社の業況（景気）をどのように見通していますかの質問に対しては、普通との回答が55.9%と最も高く、次いでやや悪いが27.1%という結果となりました。そのほか、2019年において貴社の売上額の伸び率は、2018年に比べておおよそどのくらいになると見通していますかなどについての結果を、次のように取り纏めました。

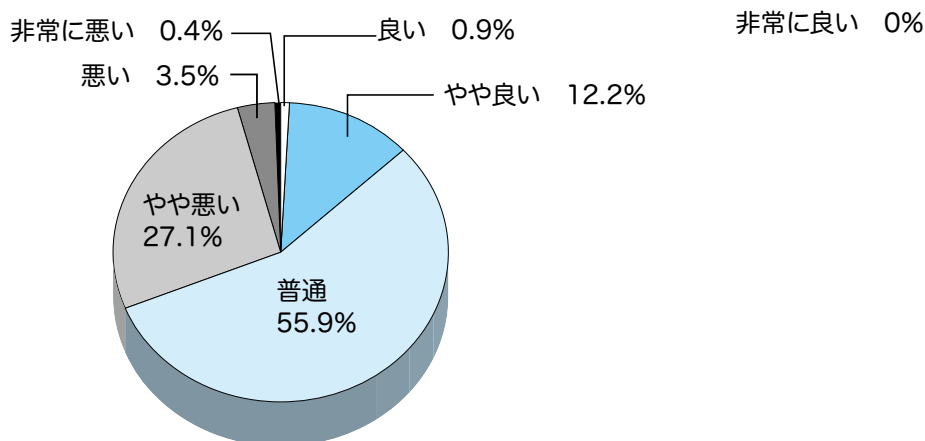
問1 貴社では、2019年の日本の景気をどのように見通していますか。

(単位:%)



問2 貴社では、2019年の自社の業況（景気）をどのように見通していますか。

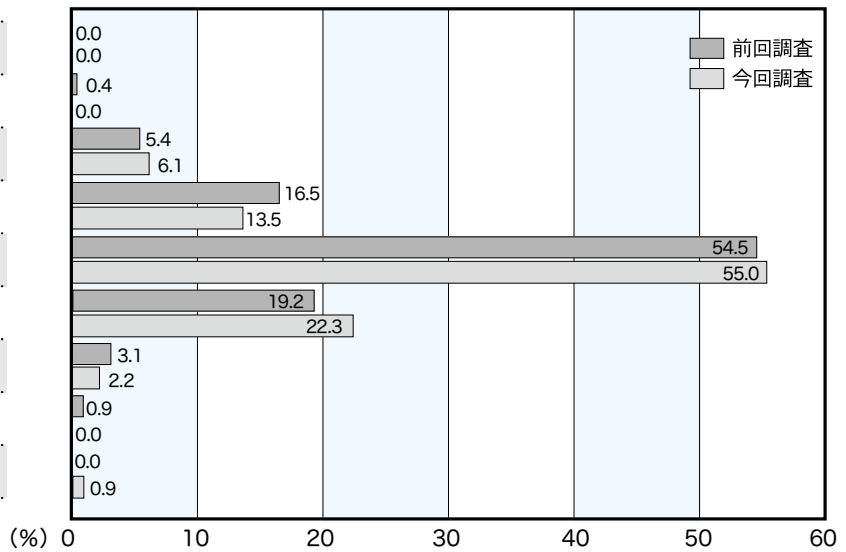
(単位:%)



問3

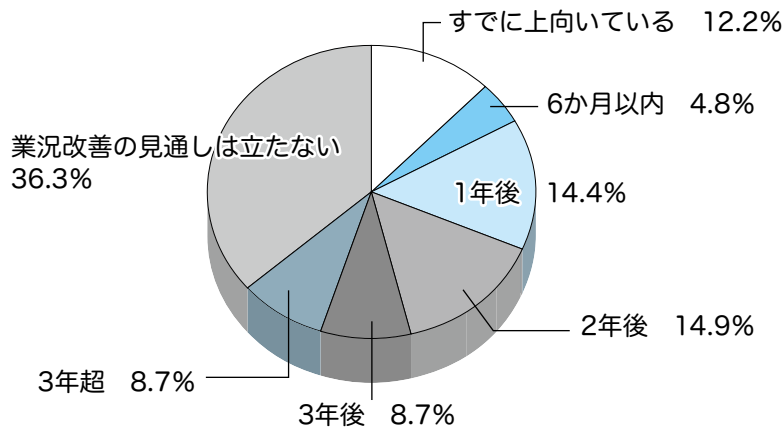
2019年において貴社の売上額の伸び率は、2018年に比べておおよそどのくらいになると見通していますか。 (単位:%)

- 30%以上の増加
- 20~29%の増加
- 10~19%の増加
- 10%未満の増加
- 変わらない
- 10%未満の減少
- 10~19%の減少
- 20~29%の減少
- 30%以上の減少



問4

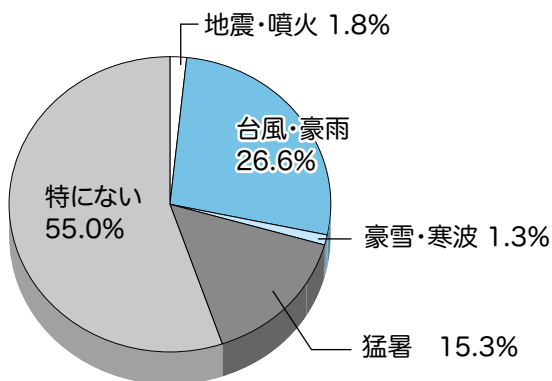
貴社では、自社の業況が上向き転換点をいつ頃になると見通していますか。 (単位:%)



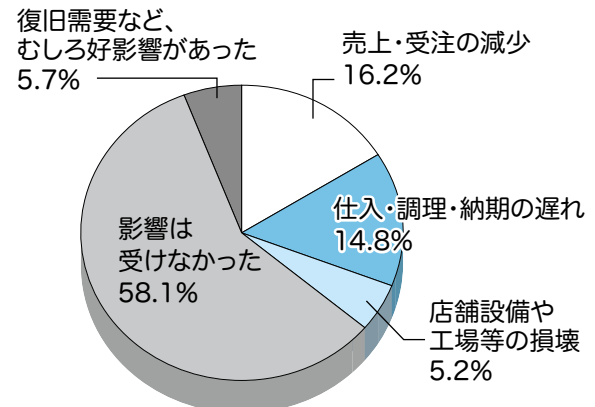
問5

2018年は、地震や台風などの自然災害が相次いだほか、豪雪・寒波や豪雨、猛暑といった異常気象も各地で発生しました。2018の貴社の経営について、最も影響を受けた自然災害や異常気象をお答えください。また、受けた影響について、最も当てはまるものをお答えください。

【最も影響を受けた自然災害等】



【経営に受けた影響】



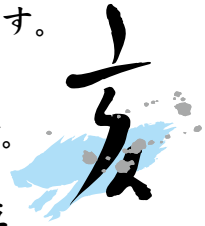
明けましておめでとうございます

平成31年の初春を迎え、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。
旧年中は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。
今後とも地域社会の繁栄に向けて役職員心を一つにして
精進してまいる所存でございます。

本年もより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結城信用金庫

理事長 石塚 清博



地域活性化融資

短期間の資金もご利用できます。

「上昇機運」

売上増加

経営安定

収益向上

宣言!

ユーシンは、中小企業の皆さんを応援し、
地域の活性化をサポートします。

ご融資金額：最高 5,000 万円

ご融資期間：10 年以内

お取扱期間 平成30年4月2日(月)～平成31年3月29日(金)

※審査の結果、ご希望に添えない場合もございますので、あらかじめご了承下さい。

詳しくはお近くの結城信用金庫までお気軽にお問い合わせ下さい。

— 後 記 —

ユーシン景気動向調査に、ご理解とご協力を頂きまして、厚くお礼申し上げます。
皆さまのご意見、ご希望をどしどしお寄せください。

結城信用金庫営業統括部

〒307-8601 結城市大字結城557番地

TEL (0296)32-2110 FAX (0296)33-0414

Eメール yukisb@intio.or.jp http://www.shinkin.co.jp/yuki/